

2015年10月刊行

ユリウス・フォン・シュロツサー

美術文献解題

DIE KUNSTLITERATUR

勝 國興 訳

(同志社大学名誉教授)

中央公論美術出版

推薦文

壮大なる知的モニュメント

高階秀爾

私がパリで美術史を勉強するようになった時、アンドレ・シャステル教授から最初に教えられたのは、何を研究するにせよまず「シュロツサー」にあたれということであった。事実、西洋美術に関する基本的な原典と研究を網羅的に収集整理して提示したシュロツサーの *Kunstliteratur* (1924) は、壮大な知的モニュメントであり、あらゆる研究者にとって欠かすことのできない基礎文献であった。

資料は絶えず増え続ける。新しい研究が次々と発表され、忘れられた原典も甦る。初版刊行以来、それはシュロツサー自身をはじめ多くの優れた研究者によって補足、改訂が加えられ、基礎文献としてますます充実したものとなった。現在私が手許に置いて使っているのは、1956年刊の増補イタリア語第二版だが、これまで、どれくらいそのおかげを蒙ったか、計り知ることができない。もちろん、増補作業は、それ以降も着実に進められている。

この度、最新のフランス語版に基く日本語版が、信頼すべき翻訳陣によって刊行される運びとなったことは、われわれ研究者にとって何よりの福音であり、心から慶賀すべき快挙である。それは大学の研究室や図書館、美術館はもちろんのこと、個々の研究者の机上においても、つねに参照すべき貴重な宝物となるであろう。

(東京大学名誉教授、大原美術館館長)

真のヨーロッパ的建築理論に精通するための書

杉本俊多

ヨーロッパでは永く、建築、絵画、彫刻は三位一体をなして造形芸術を構成するものとされてきた。日本の建築史では構造形式などの技術的な面に焦点が当たりがちだが、ヨーロッパでは建築（アーキテクチャー）とは総合芸術の芯をなすものと見なされ、それぞれの時代の総合的な知のパラダイムを具現すると考えられている。建築物や都市の輪郭や構成、比例などは知の産物であり、そのためさまざまな美術関連文献において建築や建築家についても併せて語られてきた。

翻って、古代ローマ時代の建築家ヴィトルヴィウスが著した建築理論書に書かれた言葉は、中世、ルネサンスを通じて美術の理論全般に影を落としてきたことが知られている。それはヨーロッパの精神文化において中軸をなす古典主義の系譜を形づくり、その精神は抽象芸術の時代になった現代にまで及んでいる。直感的な美の文化の背後に隠れて、その骨格をなす言葉による知的伝統を知らずには、ヨーロッパ芸術の全体像の理解へは進めない。

広く知られた名著から地方のさまざまな美術関連文献までを網羅的に拾い上げ、ヨーロッパ文化の底流をなす知的文化を詳らかにしてくれる本書は、ヨーロッパの建築文化のほんとうの姿へと、私たちを導いてくれよう。現代日本の建築界は欧米人たちにもまして言葉による説明や知的な論議を好む傾向にあり、それが建築デザイン界の世界的な成果をもたらしてくれている。本書は研究者のみならず、実践的な建築家や学生たちにとっても、さらに視野を開く糧となってくれるはずである。

(広島大学名誉教授／建築史・意匠専攻)

目次

フランス語版序文 アンドレ・シャステル

ユリウス・フォン・シュロツサー

——人、方法、著作—— オットー・クルツ

カール・フォスラーへ

巻頭註記

第1書 中世

第2書 初期ルネサンス レオナルドの遺産

第3書 ヴァザーリ以前の美術史記述

第4書 16世紀前半の美術理論

第5書 ヴァザーリ

第6書 マニエリスム時代の美術文献

第7書 バロックと新古典主義の歴史記述

第8書 イタリアの地域文献

第9書 17世紀と18世紀の美術理論

訳者あとがき

美術家索引

文献索引

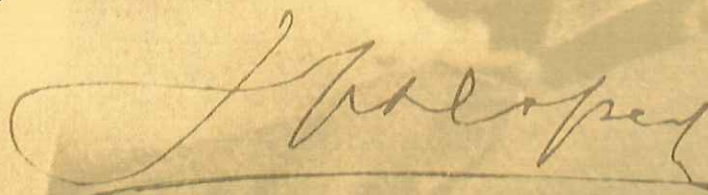
西洋美術の歴史を一書に収めた、美術史事典の福音

19世紀から20世紀に活躍した美術史家ユリウス・フォン・シュロツサー。その知的好奇心の全てを集成した本書は、古代から18世紀に至るまで、西洋のあらゆる美術史・建築史文献、記録、理論を網羅する偉大な記念碑的名著であると同時に、今なお世界で読み継がれる歴史書である。

- 西洋美術史・建築史研究に必携のリファレンス図書
- 古代から18世紀までの西洋美術理論の流れを要をおさえて解説
- レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロ、ヴァザーリなど、各年代で活躍した美術家・美術史家について詳細に記述
- 美術家索引、文献索引付き

B5判上製函入 本文960頁
定価(本体46,000円+税)

ISBN978-4-8055-0745-2 C3570



美術史・建築史学必携の基礎文献、待望の完全邦訳

著者略歴

ユリウス・フォン・シュロッサー

(Julius Alwin Ritter von Schlosser)

1866年ウィーンに生まれる。20世紀前半に活躍した、西洋美術史上のいわゆるウィーン学派のひとり。1889年よりウィーンの帝室美術収集館(現美術史美術館)に勤務し、1892年に大学教授資格を取得、1914年ウィーン宮廷顧問官兼アカデミー正会員となる。その関心は個々の作品の文学、歴史、哲学、音楽などといった文化的背景にあり、その集大成とも呼べるのが1924年ドイツで刊行された『美術文献解題』である。1938年、ウィーンにて没。

訳者略歴

勝 國興(かつ くにおき)

1934年、鹿児島県出身。1964年、九州大学大学院文学研究科博士課程(美学美術史)単位取得。1972～74年、1985～86年、ドイツ、ゲッティンゲン大学、次いでミュンヘン中央美術史研究所留学。1964年、九州大学助手。1965年、大阪府立大学助手、1968年以降、同志社大学選任講師、助教授、教授、同大大学院教授。現在、同大学名誉教授。博士(芸術学)。

関連書籍

『美術家列伝』[全6巻] [年1回配本予定]

ジョルジョ・ヴァザーリ 著

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正 監修

第1巻(2014年・第1回配本) 本文448頁/ISBN978-4-8055-1601-0

第3巻(2015年・第2回配本) 本文566頁/ISBN978-4-8055-1603-4

A4判上製函入/定価各(本体30,000円+税)

『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解』(2014年)

尾崎彰宏・幸福輝・廣川暁生・深谷訓子 編・訳

B5判上製函入/本文880頁/定価(本体32,000円+税)

ISBN978-4-8055-0705-6

『ゴシック建築大成』(2011年)

パウル・フランクル 著/ポール・クロスリー 校訂

佐藤達生・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

B5判上製函入/口絵8頁・本文796頁/定価(本体58,000円+税)

ISBN978-4-8055-0661-5

『オランダ集団肖像画』(2007年)

アロイス・リーグル 著/勝 國興 訳

B5判上製函入/本文496頁

定価(本体35,000円+税)

ISBN978-4-8055-0558-8

『西洋美術史論考』(2006年)

勝 國興 著

B5判上製函入/口絵16頁・本文456頁

定価(本体24,000円+税)

ISBN978-4-8055-0520-5

『古代美術史』(2001年)

J・J・ヴィンケルマン 著/中山典夫 訳

B5判上製函入/本文482頁

定価(本体33,000円+税)

ISBN978-4-8055-0390-4

お取り扱い

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1
IVYビル6F

TEL 03-5577-4797 FAX 03-5577-4798